

はじめての砂遊び！

品川区立小山台保育園（東京都品川区）

[0 歳児]

足・腰が丈夫になり、お座りや歩行が上達するにつれ、戸外に出る機会を増やしていった。

天気の良い日には、園庭に出て砂に触れて遊んだ。



お砂だよ。
触ってごらん！

砂を手に乗せて目の前に持って行く。

.....

砂を恐る恐る触って、初めての感触を味わう。



ばあ～
手にたくさん砂が
ついたね。ザラザ
ラするね。

手を広げて、砂がついたことや感触を知らせる。

あー！！

保育者が手を広げると真似をして、砂の付いた手を広げて見せる。

お皿に砂を入れて渡してみる。

お砂はどんな感じかな？
少し冷たいね。

砂の入ったお皿を目の前にすると、自分から砂の上に両手を置いて感触を楽しんでいる。

おっ。



.....

手をついた時に触れた砂の感触を、手を握ったり横に動かしたりしながら何度も確かめる。

考察

「やって見せ」「触ってみて」「感じる」ことから始まった自然との触れ合い第一歩の砂遊びも、回を重ねるごとに、子どもたちが自ら触れ楽しむようになってきた。ここでの楽しい体験が、これからの砂で何かを作って遊ぶ、表現するという活動に続いていくのだと思う。

みどころ

保育者の差し出す砂に始めは恐る恐る触れ、少しずつ興味をもち始め、次第に感触を何度も試そうとします。初めて砂に触れた子どもたちの興味・関心が刺激され、0歳児なりに探求していく過程がうかがえます。こうした様々なものとの新たな出会いや探索行動が、子どもたちの世界を広げていき、「科学する心」の育みの基礎になることが期待できます。